

平成 23 年度

## PTA 研修会（腰塚勇人氏講演会）のまとめ

- 1 趣旨 保護者と生徒と一緒に講演会に参加し、講師のこれまでの体験を通して命の大切さ、生きていることの素晴らしさ、両親・家族・仲間など、普段の生活の中で当たり前前に感じ、その大切さに気づかないでいること、また、誰もが誰かを照らす存在であることを知り、自問する機会とする。
- 2 期日 平成 23 年 10 月 24 日(月) 14:00～16:00
- 3 場所 富山県立滑川高等学校 第 1 体育館
- 4 演題 『命の授業 今の幸せに気づくことから夢はひろがる』
- 5 講師 腰塚勇人（こしづかはやと）氏
- 6 参加者 1・2 年生、保護者・教職員 62 名（保護者 25 名 教職員 37 名）
- 7 保護者・教職員アンケートより（回収 29/62）
  - (1) テーマ・内容について
    1. 大変よかった (19)
    2. よかった (10)
    3. あまりよくなかった (0)
    4. まったく期待はずれであった (0)
  - 具体的にどのような点でそのように思われましたか。
    - ・ 幸せな人生は自分の責任で進めていくことが出来る、という点。「日頃の行い」とよく言いますが、自分の生き方がそのまま返ってくるもの。人の痛みの分かる人になりたいと思った。
    - ・ 腰塚さんの体験から闘病中の出来事や想いをたくさんの言葉で生徒に伝えてくれたこと。命が消えるまで支えられて生かされていることを感じた。家族、子ども、友人、仕事など何を失っても、今は元気だから考えられないかもしれないが、毎日をいつものように過ごせることを感謝したい。
    - ・ 当たり前と思っていつも過ごしていることを本当は当たり前でないかもしれないと感じられる機会を子どもたちに気付いてもらえたらと思う。
    - ・ ご自身の体験をもとに分かりやすく話して下さり、説得力があった。今の自分に当てはまる部分があり驚いた。
    - ・ 実際に体験されたことを通して感じた話だったので良かった。
    - ・ 人間は自分のことを中心に考えてしまうので、少しの時間でも生き方を考える時間を過ごせて良かった。
    - ・ 死に直面されたその状況からいろんな人に支えてもらいながら回復され、その体験から子どもたちに良い影響を与えてくれたと思う。
    - ・ 冒頭のムービーでの言葉が心に残った。
    - ・ 人によって支えられて生きているのだということを改めて感じた。
    - ・ 命の大切さ、自分に自信を持つことなど子どもたちがいろんなことに気付いてくれたら、と思った。
    - ・ 命の大切さ、生きることの大切さ、またそれらは周りの人に支えられているという話が良かった。
    - ・ 当たり前前のことがすごく大切であることに気付かされた。

- ・当たり前のことに感謝する気持ちと、それを言葉にすることの大切さを改めて考えさせられた。元教員ということで、生徒にも聞きやすい話だったと思う。
- ・人間一人で生きているわけではなく、家族や周りの人間と生活している。感謝の気持ちを持って生活しなければと感じた。
- ・実際に経験された話だったので現実味があった。
- ・冒頭のムービーで一気に引き込まれた。いくつもの気づきを与えてくれた。
- ・伝えたいことが真剣に伝わったと思う。
- ・感謝する、自分の周囲の人を大切にするにはどうすればいいか、具体的な方法を分かりやすく伝えてくれて良かった。
- ・自分自身もそうだが生徒も大部分参加できた講演会であったと思う。講師の問いかけなど大変良い話だった。
- ・「人は誰もかけがえのない人」というメッセージが生徒に十分伝わってのではないかなと思う。
- ・今まで自分が経験したことのない、感じたことのない話を聞くことができた。
- ・生徒に分かりやすいテーマで腰塚氏の想いもよく伝わったと思う。
- ・生の言葉であったことと、飾らない本音の言葉であったこと。
- ・人にエネルギーを与えるような言葉を掛けていなかったと感じた。
- ・パワーのある言葉をたくさん聞かせてもらえた。
- ・語り口調で聞きやすかった。動画も合わせた講演で、メリハリがあり良かった。
- ・中学卒業後、道德の授業がなくなり生徒は命の重さについて考える機会が減っていると感じる。その意味では高校でもこのような場を通じて改めて「命」について再考する場があったのは良かったと思う。

(2) 今回の講演で一番心に残ったことはどんなことでしょうか。

- ・信じること、大切な人がいるということ、自分を大切にすることなど当たり前のことに気付かされた。
- ・腰塚さんがされている5つの心掛け。
- ・「命を大切にみなさい」という漠然とした言葉よりも「あなたが大切なのだ」という言葉に嬉しく思うこと。
- ・ドリームメーカー。自信とは自分のことを人に言うこと、ということ。
- ・「まさか」はいつ起こるか分からないから感謝の気持ちはそのときに言葉にすること。
- ・自分の思いを相手に伝えることの大切さ。
- ・感謝の気持ちを忘れず、自分を大切に、また家族や友人、地域、仕事、時間を大切にすること。
- ・「まさか」が訪れても後悔しないように今思ったことや伝えたいことはきちんと伝えることが大切ということ。
- ・人にされたことで支えられ、自分も相手に何かできるということ。夢を持つということ。自分の思いを話せる人がいて、それを受け止めてくれる人がいることの大切さ。
- ・ドリームメーカーを考えて生きていくこと。
- ・子どもが辛いとき命懸けで助けてやれるのが親の仕事。
- ・真の体験から生まれた言葉は重いということ。
- ・5つの誓い。自分の気持ち次第で自分が持っているものを良くも悪くも使えるんだと感じた。
- ・人は他人にしたことを他人からされるんだということ。
- ・すぐにお礼の言葉を口にすること。
- ・命が大切、命を大切に、そんなことを何千何万回言われるより、「あなたが大切」この言葉を言われるだけで私は生きていける。

- ・ 「自信」という言葉は自分という人間の思うことを言うことという話。生徒にどれだけ自分の思いや考えを伝えているだろうと思った。
- ・ どのように命を使うかということ。
- ・ 自分の「目、口、鼻、手足、心」を人のために使いたいということ。
- ・ 命が喜ぶ生き方をするとということ。
- ・ 3つの大切なものを考えさせられた。他の人の意見が聞けて良かった。
- ・ 止められない理由を持つこと。
- ・ 腰塚氏の息子さんの笑顔の写真、家族がいることの大切さが伝った。
- ・ 目、耳、手足、口、心の使い方。

- (3) 講演をお聞きになって、今後の自分の生活に取り入れようと思ったことはありますか。
- ・ 自分の行動に責任を持って信じた幸せに近づけるよう頑張っていこうと思った。人を信じることを実行し信じ合える世界をつかっていきたいと思った。感謝の気持ちを忘れずに生きていこうと思う。
  - ・ 感謝の気持ちを伝えていきたい。
  - ・ 家族へありがとうの言葉を伝え、一緒に居られることを喜びにして頑張っていきたい。言葉を交わせる環境にあることに幸せを感じ過ぎていきたい。
  - ・ すべてです。
  - ・ 途中で口を挟まず、子どもの話を最後まで聞こうと思った。
  - ・ 子どもの夢を叶えてあがられるよう進んでいきたい。
  - ・ 自分を理解してくれる人を大切にし、生活していきたい。また、たくさんの命があるということは両親や先生など多くの人に支えられ、愛を持って育てられたからだに感謝できた。感謝の気持ちを忘れずに言葉で伝えていこうと思った。
  - ・ 仕事ではありがとうと言えるのに家族には恥ずかしくてなかなか言えないが、言葉にしていこうと思った。
  - ・ いろんな人を信じて生きていこうと思った。
  - ・ 感謝の心を持ち、素直になること。
  - ・ 大切な人に感謝すること。
  - ・ 「ありがとう」と素直に言えるようになろうと思う。
  - ・ 感謝の気持ちや苦しいときなど素直に思ったことを言葉にしようと思った。
  - ・ 手足、目、耳、口、心それぞれ何のためにあるのか、肝に銘じようと思った。また、家族全員に「あなたが大切」と言いたいと思った。
  - ・ 自分の子どもへの言葉を見直してみようと思った。
  - ・ 子どもに好きだと伝えること。誕生日は親に感謝する日ということ。
  - ・ 感謝の気持ちは言葉・行動で伝えよう。
  - ・ 当たり前になっている今の生活に感謝すること。生徒や家族、周りで支えてくれる人に自分の思いを伝えたいと思った。
  - ・ 当たり前のことを見つめ直す。
  - ・ 自分の「目、口、鼻、手足、心」を人のために使いたい。
  - ・ 何気ない日常に感謝の心を忘れない。感謝の気持ちは言葉で伝える。人を変えようと思うのではなく自分が変わることを心掛ける。
  - ・ 思っていることはなるべく口にする。
  - ・ 「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える。自分の誕生日を親に感謝する。
  - ・ 毎日を漠然と生きるのではなく、自分の夢とは何か、問い続けようと思う。
  - ・ 今回の講演で教わったことを定期的に生徒に思い出すよう伝えたい。
  - ・ とても良い話だったので3学年にも聞かせてあげたかった。

- (4) 今後、PTA 研修会で取り上げたらよいと思われるテーマ・内容があればお書きください。
- ・ 学校生活での心構え。
  - ・ 人とのコミュニケーションの取り方。表情や話し方、声の調子などが人に与える印象や言葉遣い。
  - ・ 人とのうまい付き合い方。
  - ・ 身近な人との関係（親子、先生と生徒、兄弟、友人など）が上手くできない人に実例など交えての講演。
  - ・ 親子で一緒に聴ける講演。講演後に家庭で話題にできるもの。
  - ・ 経済的な観念を身につける方法

## 8 研修会（講演会）の記録

### (1) 開会の挨拶

### (2) 講師紹介（新夕校長）

昨年、腰塚氏が滑川市立早月中学校で行った講演に下田 PTA 研修委員長が参加され、本校生徒にも聞かせたい内容であると感じ、今回の講演が実現した。

腰塚氏は 2002 年長野県のスキー場で首を骨折し全身が麻痺状態となったが、周りの支えを受け回復された。本校生徒は相手を敬愛する心、優しい気持ちを持っており素晴らしく、誇りに思っている。日本一の生徒である。そんな生徒の心と腰塚氏の心は共鳴するものがあると思う。

### (3) 講演（腰塚勇人氏）

校長先生の挨拶をどのような気持ちで聞いただろうか。これまで「自分の学校の生徒は日本一だ」と言ってくれた校長先生には出会ったことがない。このような先生に囲まれ生徒は幸せだと思う。また、本校の生徒は挨拶がよくでき、会場準備の際に遊んでいる生徒がいないという印象を受けた。良い学校であり、本校へ来て良かったと感じた。

## ○ 動画「命の授業」上映

「2002 年 3 月 1 日、スキー場で首を骨折し、全身麻痺状態となった。生き方が分からず死にたいと思った。しかし、妻、両親、生徒などから優しさと勇気を貰い一人じゃないことに気付いた。そこから手足が動き始め、再度、教師として学校へ戻ろうと決めた。このとき、日常の当たり前のことに幸せを感じ、感謝の気持ちを持った。事故から 4 ヶ月後、職場（学校）へ戻ることができ、そのとき決心したことがある。

『口は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう』

『耳は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう』

『目は、人の良いところを見るために使おう』

『手足は、人を助けるために使おう』

『心は、人の痛みがわかるために使おう』

手術後、医師から難しいと言われていたにもかかわらず、息子を授かることができた。そこで、子どもの笑顔は幸せを与えてくれる、人は生まれたときから人を喜ばせる存在なのだ、ということに気付いた。そして自分もこの力を人のために使おうと思った。事故という大失敗を経験したが、周りの支えで幸せになる努力をすることができた。みなさんも応援してくれる人がいるから、自分を信じ、幸せに楽しく生きる努力をしてほしい。」

○ 動画「命の授業」作成に至った経緯

恩師である小学校 3 年生のときの担任から、「自分を卑下したり、周りの友達を大切にしない子どもたちが見られる。そんな子どもたちに事故から経験したことを話してほしい」と依頼を受け、その講演を行うにあたり動画「命の授業」を作成した。

講演後、生徒からは「命に感謝したい」「今あることに幸せを感じながら生きていきたい」などの感想が寄せられた。講演を聞いて子どもたちなりに何か感じてくれたのだと思った。これからの話のなかでみなさんにも「命」や「生きる」ということを伝えたいと思う。

○ 3つの質問

- 1 今、突然失って困るものを3つ挙げてください
- 2 その3つがなくなったら、どう感じるか、またどう行動するか
- 3 その3つの大切なものが今あることを見つめ直したとき、どう感じるか

質問 1 について、腰塚氏が生徒、保護者、教職員へフロアーを回りながら質問をしたところ、「家族」「仕事」「妹」「体」「友人」「命」「健康」「視力」「家」が挙げられた。他の講演では、「太陽」「地球」「年金」「緑」「電気」「ガス」「水道」なども挙げられた。

○ 人生にある3つの大きな「さか」

- 1 上り坂
- 2 下り坂
- 3 まさか

・ 人生には「まさか」の事態が起こり得る

3.11 東日本大震災は、「まさか」の出来事であった。震災後、被災地で3度講演を行い、そこで、妻と息子を亡くした男性と出会った。その男性は、「こんな思いをするのは自分たちだけでいい」「他の人にこんな思いをしてほしくはない」と話してくれた。

・ 自分自身に起きた「まさか」の出来事

それは2002年3月1日のスキー場での事故であった。死に直面した際、死への恐怖とまだやり残したことがあるという後悔で「死にたくない」と思った。しかし、手術後、命は助かったが全身が動かない状態にあり、「自分の人生は終わった」「あのとき死ねばよかった」と思った。当時は「人に助けをもらう人間」は「弱い人間」「やる気のない人間」「努力の足りない人間」と思っており、これからの人生で人の手を借りなければ生きていけない状態にある自分を嫌に思った。当時の自分は、苦しく、手助けをしてほしくても「苦しい」「助けて」と言えなかった。この経験から苦しくても周りに助けを求められない人がいるのだ、ということに気付いた。

みなさんは苦しいときに助けてと言える人が周りにいますか？ 聞いてくれる人が周りにいますか？ 腰塚氏は看護師さんに掛けられた「本気で元気になってほしい」と思っている」「自分にできることがあれば言ってほしい」という言葉で「自分一人じゃないのだ」と思えた。自分の気持ちを分かろうとしてくれている人がいることを嬉しく思った。「命を大切に」 そんなことを何千回・何万回言われるより “あなたが大切” この言葉を言われるだけで私は生きていける」と感じた。

みなさんは大切な人に「大切」と伝えていますか？ 誰かから言われていますか？ 感情は言葉にしないと伝わらない。「まさか」はいつ起こるか分からないので、そのとき感じたことは言葉にして伝えてほしい。

○ ドリームメーカー

- ・ 「ドリームメーカー」とは、『夢を応援してくれる人』『辛い、苦しいという声を受け止めてくれる人』『元気を与えてくれる人』

腰塚氏にとって声を掛けてくれた看護師は「ドリームメーカー」であった。

「ドリームメーカー」の別名として「パワーチャージャー＝生きる勇気を与えてくれる人」「リスクメーカー＝最後まで一緒に責任を取ってくれる人」「ホットマン＝一緒にいてホッとできる人」がある。

これらの反対語「ドリームキラー＝夢の殺し屋、やる気を失わせる人」。

- ・ 看護師の他の「3人のドリームメーカー」

そのうちの2人は、当時の自分に3年生のクラス担任をさせてくれた中学校の教頭と学年主任である。「今まで腰塚氏が周りにしたことは、自分に返ってくるのだ」と言ってくれた。自分のことを待っていてくれる人がいる、必要としてくれる人がいるということは、エネルギー源となり、この人たちを裏切ろうとは思わなかった。これが、自分が「止めない理由」を持てたときである。

もう1人の「ドリームメーカー」は、リハビリの先生である。「自信」とは自分を信じることであり、自信の始まりは「自分のことを人に言うこと」であると教えてくれた。自分の思いを話せるということは、そこに聞いてくれる人が必要、ということである。リハビリの先生は腰塚氏の話最後まで聞くことを約束してくれた。

さらに、腰塚氏の「学校に戻りたい」という夢を軽視せず、一緒に叶えようと頑張ってくれた。「自己開示できる人」「自分のぶっちゃけを聞いてくれる人」の存在の大切さを感じた。

- ・ 「命は時間、時間は今であり、今この時間をどう生きるか、今ある命を誰のために使うか」

生きるということは自分の命の使い方を選択できるということである。命の使い方は自分で決められる。よって自己責任である。幸せになるのも、不幸せになるのも自分次第である。周りに責任を押しつけるのではなく、自分が変わることが大切である。人を変えようと思うのならば、まずは自分が変わることである。

○ 新たな第二の人生に立てた「5つの誓い」（自分への約束）

- 1 口は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう
- 2 耳は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう
- 3 目は、人の良いところを見るために使おう
- 4 手足は、人を助けるために使おう
- 5 心は、人の痛みがわかるために使おう

自分の命の使い方として、自分の命が喜ぶ生き方をしようと思っている。

そのためには、「5つの誓い」ができる生き方をしようと思う。周りの人だけでなく、自分も大事にしてほしい。そして、自分の息子が教えてくれたことがある。それは「人は人を傷つけるためではなく、人を喜ばせるために生まれてきたのだ」ということである。だからこそ人は、「自分や人を傷つけない行動をする」選択ができるのだ。

父親に「生きている間は面倒を見てあげられるから実家に戻っておいで」、母親に「代わられるのもなら、代わってあげたい」と言われたとき、見返りを求めない無償の愛を感じた。子どもが辛いとき命懸けで守ってやるのが親の仕事だ、とも言うてくれた。自分に子どもができて、このときの親の気持ちが分かった。気付いたときが始まりであり、今からでも親孝行はできると感じた。自分の誕生日は祝ってもらうだけのものではなく、産んでくれた親に感謝する日なんだと気付いた。

「夢」はエネルギーである。夢を見つける方法は、自分の心が動いたことをしている人の真似をすることである。心が動くということは、興味・関心があるということである。

腰塚氏に「夢」をくれた人は妻である。妻の「今シーズン、スキーどうする？」という一言に、やるかやらないかは自分次第だということに気付き、子どもと一緒にスキーをしたいという夢が生まれた。

もうひとつの「夢」は、誰かのために生きる力になりたいということである。そのために教師を辞め、全国で『命の授業』を伝えていくことを決めた。生きること、命を大事にしてほしい。また、「夢」を見つけてほしい。

○ 2つのお願い

- 1 これからずっと大切な人、大切なもののために「ドリームメーカー」として「大切だ」という思いを言葉にして伝えてほしい。
- 2 自分の力、友達、先生、両親、社会の大人を信じてほしい。  
みなさんの周りには本気で生きている人、愛してくれる人など「ドリームメーカー」がたくさんいる。そういう人たちに出会ってほしい。さらに、そういう人になってほしい。

(4) 質疑応答  
なし

(5) 謝辞（生徒会長）

ありがとうございました。友人がいることや、友人が助けてくれることを当たり前だと感じていたが、そのことに感謝したい。また、自分の夢に向かって頑張ろうと思った。

(6) 閉会の挨拶